

アコと人生・・・この人にインタビュー《第8回》「池田達生さん」

今回紹介するのは、一昨年「第 19 回関東アコーディオン演奏交流会（独奏部門）」《シニアの部》に出演され入賞第 1 位になられた方で、2 年ほど前から「ともしびアコーディオン合奏講座の初級講座」を担当しているというアコ暦 44 年の池田達生さんです。8 月 6 日（木）赤羽駅前の喫茶店にて、塚本実行委員長と筆者とでアコと人生についてお話を伺いました。

□昭和 22 年 3 月長野県長野市篠ノ井（千曲川のほとり）で生まれ、地元の高校を卒業すると 18 歳で上京し印刷会社に就職、寮生活が始まりました。

♪アコーディオンとの出会いはいつ頃ですか。

□高校 3 年のとき、「世界のサーカス」というテレビ番組のテーマ音楽でアコーディオンソロの「マイムマイム」が演奏されていました。毎週流れてくるその音にすっかり魅了されました。入社後すぐに職場の先輩にアコーディオンを弾きたいと話す、翌日には、小さなアコーディオンを持ってきてくれました。というのも、当時は、職場でうたごえを起こそうという機運が高まっていて、「だったらアコーディオンを覚えて伴奏をしてくれよ」といわれ、合唱団白樺のアコーディオン教室に通い、中山英雄先生のレッスンを受けることになりました。

自分の練習は、印刷工場の地下室でどんな大きな音を出しても大丈夫でした。この地下室こそ私のアコーディオン修得の基地でした。

最初数人いた生徒も、半年後の修了時には、私一人になってしまいました。その後どうしようか先生に相談し、中山先生の自宅での個人レッスンを受けることになりました。が、いろいろあつて中断後、江森登先生の個人レッスンを受けることになり 1 年ほど通いました。夜勤のある交代制勤務や、地域のうたごえ合唱団での活動などがあつたりで週一回のレッスンは結構きつく、せつかく先生についても長続きはしませんでした。

♪独学の期間が長かったことになりませぬ

□31 歳（1978 年）の夏、日本のうたごえ合唱団のアコーディオン伴奏担当でキューバで開かれた「第 11 回世界青年学生祭典」に参加しました。日本の各ジャンルの文化代表団と一緒に各国の青年、キューバの人達と交流してきました。民族音楽コンクール、日本を紹介する「日本の夕べ」などでうたごえ代表団の演奏に対する大きな拍手は、なにものにも変

えがたい体験であり、大きな感動を覚えました。（写真は各国の青年たちと交流したときのものです）。



1980 年のニューヨークでの S S D II にもうたごえ代表団のアコ伴奏担当の一人として参加しました。

結婚は、33 歳でしたがちょうどその頃、イタリアに留学していた小林靖宏氏（C o b a さん）がオーストリアでの世界アコーディオンコンクールで 1 位を受賞し帰国していました。教えて欲しいと自宅を訪ねました。話をしているうちに、長野の私の隣町の出身だと分かりました。1 年ほど毎週レッスンを受けることができました。昨年ラースホルムさんのセミナーの打ち上げに C o b a さんが見えられ 30 年ぶりにお会いしましたがちゃんと覚えていてくれたのには感激しました。

♪三人の方から指導を受けて教え方は三人三様でしたか。

□最初に中山英雄先生の教室で習ったベローイングや弾き方が基本でした。一音、一音、1 フレーズ、1 フレーズをすごく大切に音楽を丁寧に作り上げていく先生で、最初に中山先生の指導を受けられたことはとても良かったと思っています。

江森先生からは、その曲の持っている“自然な流れ”をどう表現するか、特にベローイングの重要性を学びました。

C o b a さんのところでは、一つのフレーズにしても、色々な弾き方をやるようにいわれました。アクセントを小節の 1 拍目に入れたり、途中に入

れたり、また思い切り音を出してみなさいといわれ、ffでだしているつもりだけど、それでもまだ小さいと言われました。イタリアの教則本でしたが、今でも必要ところは、繰り返し使っています。

すばらしい先生方にめぐり合えたことは幸せだったと思います。ただ長続きせず、挫折の連続だったことは残念でしたが、またそのことが、この年になってさらにもいい音、いい音楽を求めることにつながっているのかも知れません。

独学の期間が20年以上も続きました。今年の7月にJAAのセミナーで江森先生の公開レッスンを受け、キチンとレッスンを受ける必要性を痛感し、この8月からは、音楽センターで柴崎和圭先生のレッスンを受けています。

♪ともしびとのつながりは？

退職後は「ともしび」で伴奏したいなど前から思っていました。2年前、60歳の定年を機に「ともしび」新宿店を訪ね相談。最初断られましたが、地元でもうたごえ喫茶をやっていることなどを聞いてもらう中で担当者から「それじゃ、一度遊びに（弾きに）きてみて」といわれ、日を改めて伺い一晩お店で弾かせてもらいました。店長に結果を聞くと「明日から毎日きていいよ」と言われたときは嬉しかったです。毎日とは無理なので第2、第4水曜日に行くことに。今年で2年、歌集収録600曲の修得に挑戦中です。また、その縁でともしびアコーディオン合奏講座にも入り、合奏のレッスンに励みつつ初級の講座を受け持っています。

♪アコーディオンを続けていて良かったなと思うことはどんなことでしょうか

□こちらから楽器を持っていけばそこで、歌の輪が広がります。地元の新婦人のコーラスグループでも喜ばれています。

近くにある大きな病院のホスピス病棟に入院していた友人からは、アコーディオンの音が聴きたいとのことで、病棟の看護師さんが中心になって、アコーディオンと歌の集いを開いてくれました。車椅子、ベッドごとの患者さんや付き添いの方、看護師さんら大勢参加され楽しいひと時が作れました。友人はその2ヵ月後には、亡くなりましたが、この春には第2回目が開かれました。

上尾の地元で小学校の先生方と始めたうたごえ

喫茶「タヤけこやけ」も3周年を迎えました。

故郷の隣町の松代にある故大島博光記念館併設のレストラン「はなや」での毎月第4土曜日夜のうたごえ喫茶でも伴奏しています。

心一つに歌い交わす場面に出逢うたびに、微力ながら幸せな場を作り出すことに役に立っているかな一つて実感する時がアコーディオンを続けていて良かったと思う時です。

♪これからの抱負をお聞きしたいです

□みんなで歌える機会、場をもっとつくって行きたい。そんな思いから、継続雇用期間も終えた4月から「菜の花おんがく企画」を立ち上げました。うたごえ喫茶、集いで伴奏、歌の集いの企画、アコーディオンの個人レッスン、友人のピアニストのイリーナ・メジューエワさんほかのコンサート企画などなど夢は広がります。

先日、ラースホルムさんとバンドネオンの三浦一馬さんのコンサートを聴きました。心を揺さぶられました。そして未だに耳にこびりついている高校3年のときに聴いたマイムマイム。まだまだ足元にも及びませんが、少しでも近づきたいものです。挑戦していきたいです。（写真は昨年のJAA

A主催ラースホルムさんの公開レッスン受講後の打ち上げ会



でラースさんと一緒に写した1枚です）

大好きな溪流釣りも今年は1回も行けずじまい。来年こそは山奥の沢でたつぷり木々の香りに浸りたい。そして、アコーディオンや、溪流の仲間たちと一緒に思い切りビールを飲み、語り明かしたいです。これも私の大事な夢です。

また、実家が有機農法による桃、巨峰、梨、野菜の栽培農家なのでこちらで紹介していきます。（写真は、満開の梨畑）



♪期待しています

《乙津:記》